

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 金沢市立 三馬小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8164

石川県金沢市久安6丁目154

E-mail [minma-e@kanazawa-city.ed.jp](mailto:minma-e@kanazawa-city.ed.jp)

Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/>

幼児児童生徒数 男子 350名 女子 348名 合計 698名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳 ~ 12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、体験的な学習や問題解決的な学習を行い、身近な自然・伝統・文化・地域・人々などとの交流を通して自ら学び考える力を育成し、学び方や考え方を身につけ、自己の生き方について考えることができることを目標とした。学習を通して人とのつながりを大切にし、出会った方の生き方や仕事に向かう姿勢、人との関わり方について学んでいく。今年度は特に①地域の伝統文化に係わる活動、②健康・福祉に係わる教育、③環境に係わる学習、④キャリア教育に係わる学習を行った。

### ① 地域の伝統文化に係わる活動 (3年)

学校の伝統である「三馬っ子音頭」を4年生から受け継ぎ、指先から目線まで意識して上手に踊れるよう練習を重ねた。「三馬っ子音頭」制作に携わった先生からも当時の様子や願いを聞き、その願いを下級生や地域の方に伝えていきたいという思いをもって踊ることができた。

様々な活動を通し、児童は自分の暮らす三馬校区についてより目を向けるようになり、地域への関心をさらに高めることができた。また、地域の方との交流を通して、相手の立場に立って考えることの大切さや伝統文化を通して、伝統を受け継いでいくことの大切さを実感することができた。

## ② 健康・福祉に係わる教育（４年）

耳が不自由の方と手話で話したり、目が不自由の方から便利な道具や点字について教えていただいたりすることを通して、相手のことを考えながら気持ちを伝えることの大切さを学んだ。疑似体験では、ブラインドウォークや車いす、高齢者体験などを行い、毎日の生活での苦労を肌で感じた。また、介助してくれる人の必要性や安全・適切に介助する難しさも知った。

## ③ 環境に係わる学習（５年）

三馬小の校区に流れる伏見川は、子ども達も慣れ親しんでいる川である。その伏見川の環境や生き物の実態について調べた。実地調査からたくさんの生き物があることが分かったが、周辺には生活ゴミが落ち、川岸が防災対策でコンクリートに覆われていることに目が向いた。未来の伏見川を生き物にとっても人にとっても住みやすい川にするために、自然環境や防災の観点を取り入れた伏見川の未来理想図を考えた。

## ④ キャリア教育に係わる学習（６年）

働く意味ややりたい仕事の内容を調べ、自分の憧れの職業人の方々に来校をお願いした。計８名の方が来校を快諾して下さり、講義をしていただいた。その後、多忙な職業人の方がなぜ来校して下さったのか考えさせた。子ども達は「ぼく達が期待されているから」「私達に夢を持ってがんばってほしいから」と答え、自分達が次の社会の担い手であることを意識することができた。

職業について学習することで、自分の将来の夢を明確にし、夢に向かって毎日の学習や生活に取り組んだり、今の自分に必要なことは何かを見直したりすることができた。また、仕事をする上で「あきらめないこと」「相手を大切に思うこと」などが大切であることに気付き、働く人への感謝の気持ちをもつとともに、生きることのすばらしさも感じていた。



① 校区探検の様子



③ 伏見川生き物調査



② 疑似体験の様子



④ 職業人に学ぶ

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( キャリア教育 )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

金沢ふるさと学習として金沢について学び、考え、関わり、広めることを通して金沢のまちに愛着と誇りをもち、まちづくりの担い手等よりよい社会の形成に参画する資質や能力の育成をめざしている。指導の流れとしては①テーマを持たせる、②調べさせる、③まとめさせる、④発信させる、⑤自分を見つめさせるという流れで、取り組んでいる。学習を通して学んだこと、考えたことをこれからの自分に生かすことができるような手立てをとっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内に各学年が取り組んできたことを掲示できるスペースを設置している。活動の様子が分かる写真や、児童が何を考え、何を思ったのかが分かるワークシート・感想を掲示することで、学びの積み重ねができていく。誰でも目に留まる状態となり、より学習の意識を高められている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童は身近な地域の人から、お年寄り、障害のある方、世界の人々など多くの人々とつながって共に生きるために、相手のことを考えながら行動することの大切さを学んだ。また、出会った方の生き方を通して、これからの自分の行動や将来の姿など、学んだことからこれからの生き方について考える児童の姿が見られた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動で考えたことを新聞や模造紙にまとめたり、ポスターセッションを通じて学年全体で交流したりすることができた。一人ひとりテーマが異なっていることもあり、交流を通して新たな気づきを生み出すことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校児童会活動には40年以上続く「オレンジ作戦」(奉仕の精神)というものがある。一人ひとりの小さな力をオレンジの粒に例え、みんなの力を合わせるとオレンジの実になるというものである。活動の一つとしてペットボトルのキャップやプルタブ、アルミ缶を回収・換金し、ユニセフに寄付を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他校との交流やネットワーク形成に取り組むことができなかった。3年では地域の伝統や文化、5年では自然環境と、子ども達の身近にあるテーマで学習を進めることができた。他の地域ならではの伝統や文化、または自然環境の違いについて交流できればいいと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域の人とかかわり合う中で、学校や校区・金沢にある伝統や自然のすばらしさを知り、それらを受け継ぎ、「これからもこの伝統を伝えていきたい」と地域・ふるさとを誇りに思う気持ちがより育った。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本年度と同様に身近な自然、伝統、文化、地域、人々などと交流をしていく。共生を柱として、「地域に生きる」「未来に生きる」をベースとして「地域」「福祉」「環境」「共生」の4つのテーマを元に学習し、持続発展可能な社会の実現に向けて取り組んでいきたい。また、平成29年度は、他学校との交流があまりできなかった。ユネスコスクール間で連携し合い、つながりを大切にしつつ、内容ある交流を広げていきたい。